


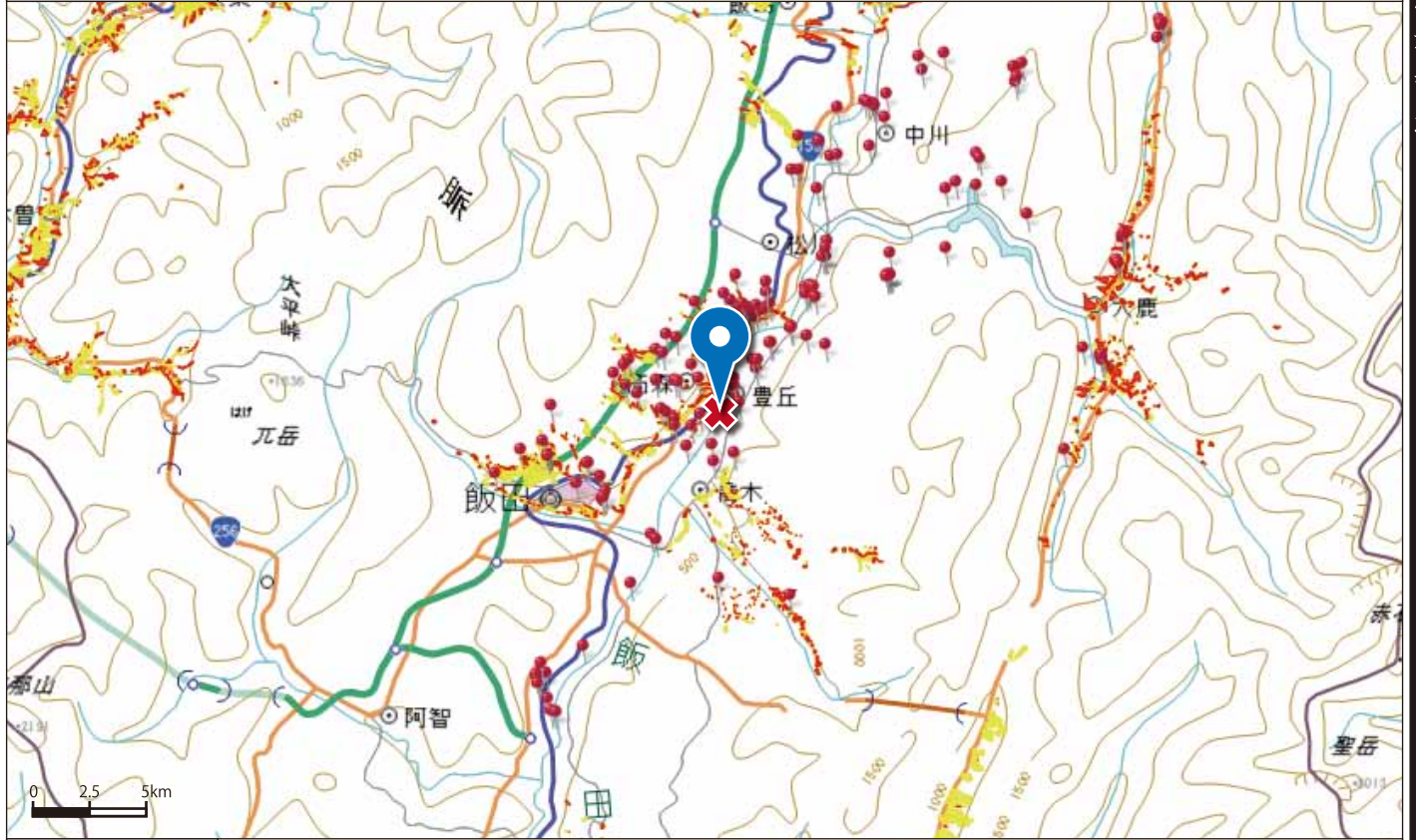


No.	15-1-1	場所	高森町下市田	次世代への継承キーワード	構造物による減災
名称	①惣兵衛堤防の決壊により浸水した水田地帯 ②惣兵衛堤防の決壊で浸水した新田 ③惣兵衛堤・伴野堤の決壊（空撮）				
災害現象	堤防決壊			河川	天竜川本川
補足事項				支流	
概要	<p>高森町吉田地区では、大島川から押し出された土砂が出砂原集落を埋めた。巨岩を積み上げた長さ約 500mにわたる惣兵衛堤防は、200 年以上もこの地域を守ってきたが、竜の背のごとく盛り上がった天竜川は堤防を乗り越え、地上部のほとんどが押し流された。田沢川は鉄砲水により下流一帯が一面河原となり、11 名の犠牲者を出した。</p> <p>●体験談：災害当時、下河原五区の堤防委員</p> <p>二十八日、対岸の伴野堤防が遂に決壊、濁流はみるみるうちに伴野たんぼを舐めつくしていった。そして翌二十九日、一度水勢は東岸に向ったかにみえがそれも束の間、到頭西岸の惣兵衛堤防にもやってきた。堤防の決壊がはじまった。午後三時三十分ころ、前に傾いた水天宮はお辞儀をするように濁流に落ちていった。続いて水防小屋が崩れ落ちて姿を消した。</p> <p>（「 variability 下市田河原」 p.54）</p>				
記録	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>水田地帯があっという間に大土石流にのまれた。右が水防小屋、中央が水天宮鳥居</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>災害直後の惣兵衛堤防付近の航空写真</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  <p>鉄砲水の勢いで惣兵衛堤防が決壊し、水田地帯があっという間に大土石流化となった。</p> </div>				
出典	「天竜川のあの頃」p.186、199/「 variability 下市田河原」p.54				
備考					

No.	15-1-1	場所	高森町下市田	緯度	35.543026
-----	--------	----	--------	----	-----------

名称	①惣兵衛堤防の決壊により浸水した水田地帯 ②惣兵衛堤防の決壊で浸水した新田 ③惣兵衛堤・伴野堤の決壊（空撮）	経度	137.884372
----	---	----	------------

地図 広域図



地図 詳細図



備考 上記地図に表示されている、黄色の区域は「土砂災害警戒区域」（通称：イエローゾーン）といい、土砂災害のおそれがある区域を指します。また、赤色の区域は、「土砂災害特別警戒区域」（通称：レッドゾーン）といい、土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域を指します。